

理
窓第 2 6 号
平成17年8月24日
理窓教育会報

東京理科大学理窓教育会

事務局 東京理科大学理窓会館4階

巻頭言

「学力低下の原因の半分は教員に」

東京理科大学理窓教育会
会長 (33K)酒井 津

親に「今、自分の子どもをどう思っていますか。自分の子どもに満足していますか」という問いかけをした国際比較調査があります。アメリカ人の親は、例えば「うちの子は成績は悪いけど、良い子よ。お手伝いもするし、優しいし」と言って、八割が自分の子どもに満足していると答えます。韓国、中国、英国、フランスの場合も同じです。それに対して日本の親は、自分の子どもの成長に満足しているのが二割しかいません。

それでは子どもの方から見たらどうか。子ども自身に「君は自分のことをどう思っている」と問いかけると、アメリカの子どもは「ぼくは勉強はできないけど、お手伝いができる」、「私はかけっこが速い」、「ぼくは正直者だ」といったように、自分は一生懸命取り組んでいると、八割の子どもが答えます。日本の子どもは、二割だけで、あとの八割はだめ人間だと思っています。

子どもをだめだという目で見ている親が、急に子どもをほめてもだめなのです。日ごろから、いいところを良くみて、ほめて育てることが大事です。それには母親が手の込んだ料理を一生懸命作ってくれた。そのことが子どもたちに喜ばれ、勉強がしたくなる切っ掛けになるのです。

子どもたちが勉強したくなる二番目の切っ掛けは、学校の授業がわかると云うことです。毎日朝の八時半

から午後三時まで授業ですから、授業がわかる状態が続けば、面白くなるのは当然です。学力低下は、学習意欲の低下が原因ですから、前述のように半分の責任は私たち教員にあるということになります。一方半分の責任は家庭学習にあります。

文部科学省は中央教育審議会の検討資料として、全国の小・中学生、その保護者、小中学校の教員らを対象に、義務教育に関する評価と期待、並びに子どもの家庭での生活状況等に関する調査を実施し、去る6月18日にその速報が公表されました。その中で、「家庭での学習時間」は平日の家庭学習時間(学習塾を除く)は、小学生が最も多かったのは「30分くらい」の37.6%、次いで「1時間くらい」25.3%、「ほとんどしない」という回答は17.1%であった。

これが中学生になると、最も多いのが「ほとんどしない」の42.5%、次いで多かったのは「30分くらい」と「1時間くらい」の18.8%であった。家庭で学習しない中学生が目立つ結果となっています。

このような現状を改善するには、私どもがプロの教員としての素養を充分身に付け、日本の中等教育を改善する責務を担っていると存じます。

会員の皆様の叢知を結集して、当会の繁栄に寄与してまいります。当会は本年度より、名称を東京理科大学教育会から、東京理科大学理窓教育会になり、気分も新たに会の主旨を活かし再構築をはかりますので、今後ともご指導ご鞭撻くださいますようお願い申し上げます。

東京理科大学理窓教育会17年度総会

(33S) 開沼恒治

平成17年度東京理科大学理窓教育会総会は、5月25日(水)午後3時40分から東京理科大学神楽坂校舎1号館17階記念講堂で行われた。

昨年と同様、あらかじめ、活動報告、決算報告、活動計画、予算、規約改訂の案文を各支部長にお届けし、ご意見等を返信していただき、会長、副会長、支部長、理事等20名のご出席をいただき、承認された。ここで、特に3点についてお願いし、お知らせしたい。

活動を活発化させるもととなる会費納入状況が、東京、埼玉、広島、静岡等が30名以上納めている反面、全く納めていない支部が15、1名が11ということなので、各支部で一層の努力をお願いしたい。

大学125周年事業への募金活動にも応分の協力を重ねてお願いしたい。

新規約により、会の名称は東京理科大学理窓教育会となった。

(39S)磯脇一男氏が、会長より理窓教育会の参与に委嘱された。

以下各議案の報告を担当理事より報告いたします。

第1号議案 平成16年度 活動報告

(平成16年5月1日～平成17年4月30日)

(33S) 開沼恒治

1. 総会 平成16年5月26日(水)東京理科大学施設研究社ビル地下2階において開かれた。各支部長に下記の事項の議案を送付し、承認をいただくとともに、16年度から再開された支部長会を総会として位置づけし、承認された。

平成15年度の会務報告及び会計報告、平成16年度の活動計画及び予算案が承認された。

教育会会則の改正案が提案された。

2. 組織の充実、強化に関して

各支部の活動状況

6月12日宮城支部総会

7月3日富山支部総会

7月18日富山支部総会

9月予定 青森支部総会

11月3日東京支部総会

11月13日岩手支部総会

11月27日秋田支部総会

11月27日茨城支部総会

11月27日静岡支部総会

12月4日群馬支部総会

12月4日埼玉支部総会

理窓会福井支部総会時に教育会福井支部の発足が報告された。

地区別支部長会

実施しなかった。

会報発行

第24号平成16年9月1日に発行

第25号平成17年3月5日に発行

3. 財政の健全化に向けて

支出については極力抑制している。会報の全国発送において、大学院生募

集パンフレットを同封し、発送費を大学と折半し、負担軽減を計った。

4. その他の活動

次の について詳しくは7ページの記事を参照されたい。

管理職選考試験合格者激励会の開催

平成17年3月5日、東京理科大学森戸記念館(同日、同所で行う)

新規採用教員予定者激励会の開催

東京支部の主催で採用予定者(学生等)17名を招いて開催した。

記念品贈呈

年度当初、各支部長をお願いして管理職の調査を行っています。この調査に基づき、管理職に初めて昇任され、平成16年4月に昇任された方々に記念品を贈り祝意を表した。

編集委員会

平成16年9月1日

第24号の発行について

平成17年3月5日

第25号の発行について

指導委員会

生涯学習課が実施する教員希望学生特別講習会(3年生対象・合宿クラス・4年生対象)、帰国子女入学予備教育講座へ講師を紹介した。

就職課が実施する教職ガイダンス(4月は4年生対象、11月は3年生対象、)及び面接指導(8月2次試験対策)への講師を紹介した。講師・職員が集い反省会実施(17年1月28日)

研修委員会 東京支部会員を中心に管理職受験希望者に対して「基礎研修」「実践研修」「直前研修」「面接研修」

を実施した。東京近辺の支部会員も受講している。

理窓会幹事の選挙に当つて、理窓会各支部長に会員を推薦した。(以上)

第3号議案 平成17年度活動計画

(平成17年5月1日ー平成18年4月30日)

(33S) 開沼恒治

1. 総会

平成17年5月25日に開催する。

2. 各支部総会

各支部で実施する。実施状況を、会報27号に掲載する。

3. 地区別支部長会

地区別支部長会を実施する。開催を希望する地区の副会長は開催日、開催地等を本部に申し出る。

4. 会則の改正・施行

総会で承認し、施行する

5. 会報発行

第26号、第27号を発行する。

6. 財政の健全化に向けて

財政の健全化を期して会費納入者の増加を図る。

7. 教育管理職受験者支援

管理職受験希望者への研修並びに管理職に昇任された方々への祝意を表す会を実施する。

8. 新規採用教員予定者激励会

管理職受験を実施する。(当分の間、東京支部が主催する)

9. 大学への協力

教員希望学生への指導、採用試験等の情報提供については従来通り実施し、一人でも多くの後輩が教職に就けるよう協力する。

就職課ガイダンス、面接指導への講師派遣、生涯学習センター講座への講師派遣等の協力をする。

大学創立125周年記念事業の趣旨に賛同し、その募金活動を推進する。

大学の学生募集に協力する。(以上)

第2号議案・平成16年度会計報告、第4号議案・平成17年度予算案

(25S)小泉眞悦

平成16年度 会計報告書		平成16年度 予算		平成17年度 予算	
収入の部	金額	収入の部	金額	収入の部	金額
前年度繰越金	129,094	前年度繰越金	129,094	前年度繰越金	92,331
納入会費	358,000	会費	430,000	会費	350,000
理窓会正会員協力金	10,500	理窓会正会員協力金	9,000	理窓会正会員協力金	9,000
雑収入・利息	1,009	雑収入	906	雑収入	1,000
仮払返済入金	8,000				
合計	506,603	合計	569,000	合計	452,331
支出の部	金額	支出の部	金額	支出の部	金額
交通費	35,000	交通費	30,000	交通費	40,000
慶弔費	10,000	慶弔費	20,000	慶弔費	20,000
会議費	28,980	会議費	50,000	会議費	40,000
支部長会積立金	150,000	支部長会積立金	240,000	支部長会積立金	150,000
事務費	23,532	事務費	30,000	事務費	30,000
会報印刷費	54,710	会報印刷費	50,000	会報印刷費	50,000
郵送費	66,985	郵送費	100,000	郵送費	80,000
記念品代	37,065	記念品代	40,000	記念品代	40,000
仮払い	8,000				
小計	414,272				
次年度繰越金	92,331	予備費	9,000	予備費	2,331
合計	506,603	合計	569,000	合計	452,331

会計:小泉眞悦、 監査:根深得英 H17.5.27作成

16年度決算書			16年度予算			17年度予算		
項目	金額		項目	金額	項目	金額		
収入			収入		収入			
前年度繰越	650,029		前年度繰越	650,029	前年度繰越	800,055		
16年度会計より	150,000		本年度会計より	240,000	本年度会計より	150,000		
受取利子	26							
合計	800,055		合計	890,029	合計	950,055		
支出			支出		支出			
地区別支部長会費	0		地区別支部長会費	500,000	地区別支部長会費	500,000		
次年度繰越	800,055		予備費	390,029	予備費	450,055		
合計	800,055		合計	890,029	合計	950,055		

H17.4.27 作成

第5号議案 (報告)

(39S) 磯脇 一男

教育会の名称変更及び会員規定の拡張

教育会は、平成17年度の定期総会で、規約を改定し、名称を、他の理窓会関連組織と同様「理窓」をつけ東京理科大学理窓教育会と改めた。また、会員の規定を、教職関係の同窓から、会の趣旨に賛同する同窓は、誰でも教育会会員になれることにし、開かれた組織に向け前進した。これで名実ともに理窓会の組織の一員としての存在が明確になった。理窓会会員であれば、誰でも会員となれることになったので、多くの方が加入されることを願っている。

なお、第11条付則3)の中部()地区の長野支部を中部()に移す案が出された。関係する地区、支部の意向を確かめ検討していきたい。

東京理科大学理窓教育会規約

第1条 名称

本会は東京理科大学理窓教育会という。

第2条 目的

本会は教育界における同窓の資質の向上を図ることを通して教育の発展に寄与するとともに、会員相互の親睦を深めることを目的とする。

第3条 事業

前条の目的達成のため次の事業を行う。

- (1) 大学の諸施策に協力する事業
- (2) 会員の資質の向上に関する事業
- (3) 会報の発行
- (4) 組織の構成に関する事業
- (5) その他本会の目的達成に必要な事業

第4条 会員

本会の会員は、教職関係者の同窓、および、本会の目的に賛同する同窓とする。

第5条 役員

本会には次の役員をおく。

会長1名

会長は、副会長の推薦で選出する。
会長は本会を代表し、会務を統括する。

副会長11名

副会長は、次の各地区の支部長から選出され、総会で承認する。
北海道 東北 関東 東京 中部() 中部() 近畿
中国 四国 九州 沖縄

地域より選出された副会長はその地域の支部長との連携を深め、会長を補佐する。

会長はあらかじめ会長の職務を代行する副会長を委嘱することができる。

監査 2名

監査は、本会の業務・会計の監査に当たる

監査は、理事会が推薦し、総会で承認する。

名誉会長

名誉会長は、長年会長を務め功績のあった者の中から理事会の推薦により、会長が委嘱する。

名誉会長は、本会の運営について、指導助言する。

参与

参与は、支部長・副会長を務めた者のうち、支部から推薦のあった者の中から、理事会の審議を経て会長が委嘱する。

参与は、本会及び支部の活動について指導・助言する。

理事 若干名

理事は、必要に応じて会長が委嘱する。

理事は、会長の命を受け会務を分担して処理する。

第6条 役員の任期

役員の任期は3年とするが、再任を妨げない。

ただし、名誉会長、参与はこの限りでない。

第7条 会議

本会における会議は次のものとする。

総会 年1回

総会は以下の事項について審議決定する。

会務の計画と報告

本会の会計の予算の審議及び決算の承認

副会長及び監査の承認

本会の規約の改正

その他理事会から提出された事項

総会の議長は、会長がこれに当たる。ただし、必要により、会長が指名する者がこれに代わることができる。

総会は、支部長会をもってこれに替えることができる。

理事会は、必要に応じて会長が召集する。

地区別支部長会は、地区の副会長の要請を受け、会長が召集する。

副会長が議長に当たる。

第8条 支部

本会は、各都道府県に支部をおく。

支部は、支部長を選出し、事務局をおく。

支部長は、所属する支部を統括し、本会との連携を深める。

支部の規約は、本規約に準じてそれぞれの支部において定める。

第9条 事務局

本会の事務局を、理窓会事務室内におく。

第10条 会費

会費は、年額1000円とする。

第11条 付則

1) 支部においてその地域の理窓会の支部長が本会の会員でない場合は理窓会の支部長を顧問としておくことができる。

顧問は、会長がその支部の意を受けて理窓会と協議の上、依頼する。

2) 支部長会または支部が支部総会を行う場合、その要請に応じて役員等を派遣することができる。

地区別支部長会、支部総会に出席する役員等は会長もしくは会長が委嘱する者とする。

3) 第6条の副会長の項の各地区に所属する県は以下の通りとする。

北海道地区：北海道

東北地区：青森、秋田、岩手、山形、福島、宮城

関東地区：茨城、群馬、栃木、埼玉、千葉、神奈川、

東京地区：東京

中部()地区：静岡、山梨、愛知、岐阜、三重、長野
中部()地区：新潟、富山、石川、福井
近畿地区：滋賀、京都、奈良、大阪、兵庫、和歌山
中国地区：岡山、広島、鳥取、島根、山口
四国地区：徳島、愛媛、高知、香川
九州地区：福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島
沖縄地区：沖縄

4) 副会長の再任については、第6条の規定にかかわらず、一回限りとする。

以上

平成8年5月22日 改正平成13年6月30日 改正平成17年5月25日改正

地区別支部長会報告

九州地区支部長会の報告

九州地区副会長(32B)西嶋 進一

九州地区支部長会を全国に先駆けて実施しました。

本部より、報告の依頼を受けましたので下記の要領で報告いたします。

実施にあたって

平成14年度の総会報告の3号議案で地区別支部長会議」を活動計画として認められましたが14～16年度は実施されませんでした。幸い、会報25号で「...年間を振り返って」の末尾に本年6月までに新体制で地区別支部長会が実施されるよう願っていますと、述べました。磯脇先生から実施の問い合わせがありましたので、4月26日に概要を連絡し担当の伊藤先生に内容をFaxしました。

概要について

九州地区支部長会の開催について

1. 趣旨 東京理科大学教育会の規約改定に従いその目的を達成するため
2. 日時 平成17年6月5日(日)12:00～15:00
3. 場所 熊本市桜町3-10 熊本交通センター
4. 参加 各県支部長で教育会と理窓会の兼任県(5県で5名)と不兼任県(2県で4名)、本部役員1名 合計10名

結果について

1. 欠席3名で内1名は委任、地元2名追加、合計9名の参加で実施。

2. 改定案については17年度1月の原案を集約され最終案ですが、理窓会会則及び会費の改定案が6月19日から施行されるので教育会との影響は如何か。
3. 特に会費等について理窓会3000円(選択)教育会1000円(低迷)、募金1口～1万円以上(大変)となっている。
4. 最近の教員採用合格者(九州地区)は0に近く又教育会費納入状況は半減している。更に3年に1度の助成金活用と自主財源の確保の問題を解決しないことには将来像は現れない。

近畿地区支部長会の報告

京都支部長(40S)田中 理房

例年は京都駅前「新都ホテル」を会場に支部長会を開催してきましたが、本年は、東京理科大学創立125周年記念巡回講演会が、チサンホテル新大阪で開催される機会に、当ホテルで近畿地区理窓教育会支部長会を開催致しました。当日7月2日は、普段は車の洪水となる御堂筋も、小雨降る梅雨空の土曜日、しかし会場には多くの方々が集まり、基礎工学部山登一郎教授の講義を、私ども近畿地区支部長も久し振りに、学生の気分になって聴講させて頂きました。

講演会終了後、奈良・大阪・兵庫・京都の支部長による、5月の総会報告を中心に意見交換を行いました。また、山口東京理科大学入試対策委員長竹永教授、菅井繁教授にも、ご出席頂き学生の状況などの説明を頂きました。

特に今回は、規約改正に伴って、広く理窓教育会に理窓会員が会の目的に賛同を頂いて、教育、特に理数教科の教員の育成支援の輪を大きくしてゆく必要性を、出席支部長全員が確認しま

した。

その中で、地方の理科大出身の管理職者登用が、希になってきている現象に、ある種の危機を感じている支部長から、理窓教育会は勿論、大学への教職課程の充実に向けてた要望意見もありました。今日、多くの先生方は熱心に、それぞれの任地で教育に汗をしている大変な時代であります。

しかし、本学建学の精神を实践された先人は、「理学について」「教育について」熱い思いで、教育の礎を積み上げてこられました。今この「熱い思い」の温度差が、地方の現場に立つ同窓教職者の肌に、強く伝わってくる意見が出ました。

理窓会・理窓教育会いずれも会員数が思うようにならない現実、しかし、次代の「21世紀科学の情熱拠点」を目指す大学と、現場に立つ教職員の励みが、相乗作用となって、良い方向に、理窓教育会が活動できるように、近畿地区支部長は意を同じくした次第であります。

最後になりましたが、長く兵庫支部長を務められました永井万介先生は、昨年来体調不良により自宅静養をなさっております。出席者全員一日も早くご回復されますことを祈念して散会しました。

支部の活動報告（特別寄稿）

新規採用教員・管理職選考合格者激励会

東京支部長（49 専 S）廣瀬 和昭

平成17年3月5日、新規採用教員・管理職選考合格者激励会が、東京支部の主催で東京理科大学・森戸記念館において開催された。78名の新規採用教員予定者に案内を出し、そのうち18名が参加した。今年度の管理職試験に合格された会員の他、28名の現職、OB教員が出席し、新しい後輩の門出を祝った。

来賓として、岡村弘之学長、石井忠浩理事、澤田利夫数学教育研究所長、井上吉靖理窓会東京支部長がご出席された。酒井会長の開会の挨拶に続き、岡村弘之学長、石井忠浩理事から祝辞と激励の言葉をいただいた。

同じ席上で、東京都教育管理職の昇任試験に合格された方への激励会も行われ、先輩からの激励に続き、合格者から力強い決意表明があった。

引き続き懇親会に入り、来賓の澤田利夫数学教育研究所所長、井上吉靖理窓会東京支部長から祝辞と激励の言葉を頂き、各先輩からは様々なアドバイスがあった。

また、新採予定の諸君からは自己紹介とともに教師としての熱い抱負が述べられた。和やかな雰囲気の下、同窓会としての先輩・後輩の絆を深めつつ散会した。

なお、教育会では、年度当初、各支部長にお願いして管理職の調査を行っている。この調査に基づき、平成16年4月に初めて管理職に昇任された方々に教育会から記念品を贈り祝意を表すことにしている。

今年度の教員採用選考試験の受験者は減少したので、合格数が懸念されていた。しかし、合格数は78（昨年87）になり健闘した。来年度は受験者も増加が見込まれるので、昨年までの合格数急増の傾向は、来年以降も続くものと期待している。

同窓の活躍

「定通教育の充実を目指して」
全国定時制通信制高等学校長会理事長
東京都立大江戸高等学校長
(45 専 S) 小久保 正己

1 はじめに

このたび、全国定時制通信制高等学校長会の理事長に就任した小久保正己です。これまで大江戸高校(チャレンジスクール)づくりを通して、これまでの高校の在り方を一つ一つチェックしながら、これからの教育の在り方を考えてきましたが、いきなり全国組織ということで戸惑っています。

課題が山積していますので、一つ一つ丁寧に仕事をしていくことで、皆様のご期待に応えていきたいと考えています。全国の同窓の皆様のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

2 定通教育の課題

フリーターやニートの問題が大きな社会問題になり、定時制通信制教育の果たす役割がますます重要になっている一方で、様々な課題や困難な状況も顕著になってきています。

国レベルでは、三位一体改革の中で定通予算を確保することです。定通教

育は制度改革の影響を受けやすいので注意して取り組む必要があります。

県レベルでは、高校改革が進行する中で定通教育の教育条件をレベルダウンさせない取り組みです。高校の統廃合で入試が流動化し、定時制の不合格者が多数出ています。また夜間定時制で定員一杯のところが多々あります。定時制のよさを発揮するためには、少人数授業ができるよう教育条件を確保する必要があります。

次に、ますます深刻化する生徒の状況への対応があります。不登校の割合や病的な傾向も進行しているから、組織的な取組が求められます。その上で、生徒の実態を踏まえて、具体的な授業改善を図る必要があります。

3 これからの教育の在り方

いま大事なことは、定通教育の柔軟なシステムを活かして、生徒一人一人の学びを実現することです。定通の生徒は習熟度に大きな開きがあるので、いろいろな場面を工夫して、生徒一人一人の学びに寄り添って支援する必要があります。そして、できた、分かったという喜びを味わわせることです。

また、入学時からキャリア教育を徹底し、これからの社会を生き抜く資質を生徒に身に付けさせることです。キャリア教育は、インターンシップなど何か特別なことを行うのではなく、まずこれまでの教育活動をキャリア発達の視点で見直すことだと思います。このため、数学や理科の授業においても、学ぶ意味や生き方を考えさせ、学ぶ意欲と態度を身に付けさせることを重視していくことです。

4 全国のネットワークを活かす

こうした教育を行うためには、校内研修等に取り組むとともに、教員が視野を広げ、全国の素晴らしい教育実践をお互いに学び合うことが大切です。

本校の場合でも、チャレンジスクールということで様々な苦労はあるが、全国的に見たら、大変恵まれた中で取り組んでいることに気がきます。全国の先生方の発表を聞いていると、困難な状況の中で素晴らしい努力や工夫をしている学校があります。

本会は同窓の全国ネットワークで、私たちの大きな財産です。同窓の誼を活かして、教育実践の交流などに活用していきたいと思えます。それとともに、全国の定時制通信制関係の組織を

活かし、その役割を十分に発揮して、定時制通信制で学ぶ生徒のために努力していきたいと考えています。

管理職への昇格

平成17年度の異動で、多くの同窓が管理職に昇格されました。心からお祝い申し上げます。

初めて管理職に昇任された方には、教育会から記念品を送らせていただきました。

青森

佐藤孝志 47 理 S 下風呂小長
原子博明 52 理 B 第二川内小長
秋田

柏原正人 50 理 S 西目中長
伊藤 篤 53 理 S 森吉中長
富樫武彦 57 理 B 大内中頭
佐々木康二 54 理工 B 大久保小頭
澤井康孝 53 理 S 義務教育指導主事

茨城

染谷郁夫 52 理 O B 神谷小長
小沼光一 54 理工 S 管理主事

群馬

田村 仁 48 理工 S 安中実業高長
猿谷亮司 51 理 B 藤岡中央高頭

埼玉

金子和人 55 理博 K いずみ高長
三友俊一 44 理 K 蓮田養護長
佐東雄二 50 理 S 上尾養護長
長谷川清司 47 理 S 行田進修館高長

東京

佐藤 勝 55 理工 S 中長要員
白杉敏康 53 理 S 中長要員
宮城 正 49 理 S 中長要員
大川武央 中長要員

若井文隆 55 理工 J 高長要員
土屋 徹 60 理修 S 高長要員
高橋伯也 52 理修 S 高長要員

安井 実 中副要員
渋谷俊昌 57 理 S 中副要員
渡邊重幸 61 理 S 行政等要員

神奈川

山本 孝 46 理 O S 相武台高長
寺崎和夫 49 理工 S 保土ヶ谷高長

諸岡紀夫 51 理 S 相模大野高長
井上尚行 45 理 S 神奈川工高長
安藤正幸 51 理 S 希望ヶ丘高長

杉坂郁子 54 理 S 横浜旭陵高頭
川津正巳 60 理 K 川崎高頭
静岡

後藤 登 47 理工 S 初島中長
 小泉 博 49 理工 K 丘小長
 小田広之 53 理工 S 蒲原東小長
 望月俊昭 49 理工 S

清水中河内小長

松原龍一 50 理 S 伊東高頭
 小出哲也 4 理 S 多賀中頭

京都

原田克己 50 理工 S
 教育センター指主

岡山

出射 周 46 理 S 西大寺中長
 橋高邦夫 49 理 O B 矢掛高頭
 田邊 弘 51 理 S 北中頭

なお、名簿が到着の県のみ掲載です。また前回の名簿と、今年の名簿から推測して掲載いたしました。

東京の場合は管理職選考試験合格者を掲載いたしました。

新任教師の抱負

神奈川県川崎市立橋中学校
 教諭 筱岡 貞晴

私は今年3月に大学を卒業し、川崎市で数学の教師になりました。一年目ですが、一年生の担任をしています。部活は剣道部です。

一番たいへんなのは担任の仕事です。一年目だろうと何年目だろうと生徒にとっては同じ先生だからです。生徒は私のことを一人の先生として捉えるので、他の先生やクラスと比べられます。私自身も他の先生と比べて、劣等感を感じることもありました。そのとき私は、「一年目だから上手くできない」と考えることが多かったのですが、ある先生に「たしかに君は一年目だけど、いつもそれを理由にしてできないというのは間違っている。君も我々と同じ一人の先生なのだから。」と言われました。確かに、私には分からないことがたくさんありますが、それでもここだけは絶対譲れないというものが必要だと感じました。今では、先輩の先生に言われたことをすぐに受け入れるのではなく、自分の考えを自信を持って主張するようにしています。

教師になってようやく4ヶ月目に入りましたが、正直、つらいことは多いです。生徒からのささいな一言で、一

日中へこむこともあります。ずっとあがれていた教師の仕事だったはずなのに、なぜ教師になったのだろうと自分に何度も問いつめた時期もありました。しかし、研修で初任者の人たちの話を聞くと、私と同じ悩みを抱えている人、私以上につらい悩みを抱えている人が大勢いることがわかり、なぜか気持ちが楽になりました。先輩の先生に話を聞いても、ほとんどの先生が、最初に苦労した経験があり、私の気持ちをわかってくれました。

つらいことばかりではなく、楽しいこともあります。今、いちばん楽しいのは、部活動です。私は運良く、経験のある剣道部の顧問になることができました。練習では、生徒と一緒に防具を付けて指導することが何より楽しいです。また、自分の教えている生徒が、試合に出て勝ったときはほんとうに嬉しいです。

教師として信頼を得るためには、日々、努力するしかありません。今、私は苦労していますが、いつか報われる日が来ると信じて、これからも努力を続けていきます。

東京都練馬区立大泉中学校
 浅賀智恵美

私は幼いころから教師だった母の姿を見て教師になりたいと思っていました。しかし大学生の頃から、「このまま教師になっていいのか。社会を知らずして教師になれるのか。」と疑問を持つようになりました。それで、私は教師になる前に企業で勤めることにしました。

企業に勤めて驚いたことは、指示を出されるまで動かない人、また夢や希望がない人が多いことです。私はこの職場に魅力を感じないと同時に、今後を背負う子供達に夢や希望を持って生きていけるように育てたいと思いました。それで私は企業を1年と9ヶ月働いた後、今年4月から東京都の中学校で数学の教諭として働いています。

今現在、1学年の副担任として働いています。実際教師になって今感じていることは、思った以上に仕事が多く、毎日朝早くから遅くまで仕事で多忙です。しかし、毎日がすごく充実しています。授業は1学年6クラスをTTで私がメインで授業をしています。私が学生の頃はTTという授業がなかつ

たので最初はどのように進めて良いかわからず大変でした。基本的にはメインの先生が黒板で授業を進め、わからない生徒が手を挙げてもう1人の先生を呼ぶと言う形で進めました。授業を行ううちに習熟度の差が大きいことに気がつきました。そこで計算演習を行う時間の時にクラスを2つに分けて授業をしました。どんどん問題を解くクラス、解説を丁寧にしながら問題を解くクラスの2つです。この授業に関して生徒達はとても満足したようで、「またクラスを分けて授業をしよう。」と言う生徒が多々いました。私としては、クラスを2つに分けて授業することには、たくさんの不安要素がありましたが、生徒の反応を見てやって良かったと思っています。これからも生徒が良いと思える授業をしていきたいと思っています。

部活動はバドミントン部の顧問になりました。私自身が始めてバドミントンをやるので、生徒と一緒にやる形ですが、とても楽しいです。今後は指導できるようにになりたいと思います。

教師として働き出してもう3ヶ月が経ちますが、本当にあっという間でした。今思い返すと、もっと補習授業をすれば良かった等色々な反省が出てきます。この反省を生かし、常に生徒のためを考え満足することなく教員としての資質の向上を図りたいと思います。そして生徒と一緒に楽しい学校生活を送っていききたいです。

東京都立片倉高等学校

教諭 福谷 真一

今年の4月に晴れて都立片倉高等学校の教師になることができました。あっという間に3ヶ月が経ち、1学期も終わりに近づいています。授業に分掌、部活と忙しい毎日ですが、この文章を書くことで慌ただしい気持ちを少し整理出来るような気がします。

私が教師を目指したのは中学3年生の頃でした。当時、反抗ばかりしていた自分ですが、それでも正面から向き合ってくれた先生のことを今でもよく覚えています。あのときに教師の存在は大きいものなんだと実感しました。同時に自分もそんな存在になりたいと思い始めたのでした。

私は色々なタイプの先生方に出会いました。そのことが今の私に大きくブ

ラスになっているのだと思います。一生懸命遊んだ小学生。反抗ばかりしていた中学生。野球に明け暮れた高校生。就職に向けて勉強した大学生。どの時期も私にとっては欠くことが出来ません。そのことは今の生徒たちにとっても変わらないことだと思うのです。

今の生徒たちに私は何が出来るのだろうか。はっきりとした正解は見えてきません。しかし、分かっていることは生徒にとっては貴重な高校3年間であることです。その3年間を人生の糧として頑張っていって欲しいと思います。そのために私は日々の教材研究で生徒の弱点を見つけ学力向上を目指したり、部活動の指導で心身ともに成長させたり、担任になったら、生徒との関わりの中で基本的な生活習慣を身につけさせ、後悔しない3年間になるよう指導していきます。そして、自分が思ったように、口うるさい先生だったけど考えてみればすごくためになった、と思ってもらえれば本望です。

まだまだスタート地点。天職だったと笑っていえるように日々精進していきます。

私立東京女学館中学・高等学校 教諭 宮井 恵

私は去年の三月に理学部第一部数学科を卒業しました。去年一年間は、現在勤めている『私立東京女学館中学・高等学校』にて非常勤講師として勤め、夜間は、東京理科大学理学専攻科に通っていました。そして、今年の三月に理学専攻科を卒業し、四月より、「専任教諭」として教壇に立っています。現在は、中学一年生の学年副担任をしています。授業は中学一年生・三クラスと高校二年生の選択授業、合わせて十六時間担当しています。この他に、ロングホームルームが一時間あります。部活動は、ソフトボール部と茶道(表)部です。

去年と大きく異なる点は、やはり、『生徒と接する機会の多さ』です。去年も、体育大会や文化祭、合唱大会のような学校行事を、出来るだけ見学させていただき、生徒と接する機会を増やそうと試みていましたが、今年は、遠足の引率を初めとする学校行事はもちろんのこと、部活動・委員会への参加、また、副担任として朝礼・終礼を受け持

神奈川県立神田高等学校 教諭 柳川 準一

つこともあります。「数学」の授業だけでは分からなかった生徒の新たな一面を発見することができる、大変貴重な機会であると実感しました。

授業では、大学の講義で教わったことを意識した板書を心掛けています。具体的に言うと、大切なところでは同じ記号を用い、色分けにも注意をしています。特に、中学一年生の授業では、練習問題を指名して板書させ、授業ノートを毎週集めることによって、表現力の向上を図っています。また、教科書「体系数学」の傍用問題集である「体系問題集 数学」を、繰り返し練習する材料として与え、隔週でノートチェックを行っています。自己採点の小テストや、定期試験一週間前には確認テストも、授業中に行っています。定期試験も含め、以上のテストは全て『解き直しノート』に貼らせ、解き直しをさせた上で提出させています。これらは、「問題集もテストも、解きっ放しにはしない。必ず答え合わせをして自分の弱点を見つけ、それを克服することが勉強である。」という意図で行っています。ノートチェックやテストの採点により、夜遅くまで残らなくてはならないことが多々ありますが、授業アンケートや、日々、聞こえてくる生徒や保護者の声の中に、「ずっと続けて欲しい」という声や、「コメントや判があるから、やる気が起こる」という声が多かったこと、また、「先生、昨日頑張りましたよ！見てください！」と、自らノートを持ってくる生徒が増えたことが、私にとって、励みとなり、頑張ることが出来ます。

「教師」は『人』を相手とする職業であるため、時には、思いがけないことに遭遇し、辛いと感じることもあります。けれど、その辛さを吹き飛ばしてくれるのも、やはり、生徒の存在であると言えます。私の今の夢は、一生「教師」として励んでいくことです。そのためにも、日々勉強することを忘れず、常に自身を磨いていきたいと思っています。今後ともご指導よろしくお願ひいたします。

今年の3月に大学を卒業し、教員生活がスタートしてから約2ヶ月が経ちました。新しい生活にも慣れ、大変充実した日々を送っています。

授業は数学と情報AのTTを担当しています。一つ一つの授業を大切に、生徒にとって分かりやすい授業の展開に向けて、十分に時間をかけ、準備をして臨んでいます。しかし、実際には思うようにいかないことが多く、授業の難しさを痛感しています。初任者研修において、指導教諭を中心に、私の授業を見て、改善すべき点を指摘してもらい、次の授業に活かしています。また、他の先生方の授業を見学し、自分の授業に活かすこともしています。日々の授業の反省を行い、回数を重ねる度に着実に良くしていこうと考えています。

部活動では卓球部の顧問をしています。私は中学からずっと卓球を続けています。その経験を活かし、生徒とのふれあいを大切にしながら指導しています。生徒と共に活動することや、会話を多く持つことが、信頼関係を築くことに結びつくと感じています。単に卓球の技術を高めるだけでなく、生徒の協調性や自己教育力を育てたい。そして、一方的な指示での活動ではなく、生徒の自主的な活動で成り立つような部活にしていきたいと考えています。

教員生活に慣れると同時に、次々に課題に直面しています。その課題にも全力で立ち向かい、自分だけでは解決が困難なことも、先輩の先生方の助言を頂き、協力をしながら乗り越えていこうと考えています。一つ一つの課題の解決に全力で取り組むことが、生徒の学校生活をより豊かにし、生徒のよりよい成長につながると考え、最大限の努力をする決意です。

今の教員生活があるのは、大学の先生方のおかげであると大変感謝しています。初心を忘れず、一人前の教師を目指し頑張ります。今後ともご指導の程、よろしくお願ひ致します。

母校創立125周年記念募金活動への協力

各道府県支部の取り組みを本部にお知らせ下さい。

東京支部では、8月26日に教育会会員を中心とした同窓へ募金協力趣旨書、振込用紙を、多くの会員のボランティアで発送することにしております。

支部別管理職者数及び会費納入者数

県名	管理職者数									会費納入者数		
	高長	高頭	中長	中頭	小長	小頭	行政	私長頭	合計	16・4～17・3	17・4～17・5	合計
北海道	4	6			1		3	1	15	2	0	2
青森				3	2	1		1	7	1	1	2
岩手	2	3		5	2	1	1		14	28	0	28
宮城		1		3					4	16	5	21
秋田	1	1	3	7	1	1	5		19	18	2	20
山形	2						3	1	6	0	0	0
福島	3		9	1				1	14	0	0	0
茨城	2	4	1		3	2	5	1	18	22	2	24
栃木	1	2	2	5	1	1	2	1	15	0	0	0
群馬	3	6					1		10	0	1	1
埼玉	15	13	4	4	2	3	5		46	42	9	51
千葉	8								8	7	1	8
東京	10	14	39	50	2	3	12	15	145	59	23	82
神奈川	12	16					5	4	37	15	10	25
山梨	1	1		1		1	1		5	1	0	1
長野	2	8							10	1	0	1
静岡		4	1	3	6	2	3	2	21	39	0	39
愛知		1	1			1	1	1	5	5	1	6
岐阜						2			2	1	0	1
三重		1							1	1	1	2
新潟	4	6	9	13	2		6	2	42	1	0	1
富山	1	1	2				1		5	0	0	0
石川						1	1		2	0	0	0
福井				1	1	2			4	0	8	8
滋賀						1			1	0	0	0
京都	1			1			2		4	3	0	3
大阪	1							1	2	5	2	7
兵庫		1							1	4	3	7
奈良			1						1	3	7	10
和歌山		1							1	0	0	0
鳥取									0	1	1	2
島根									0	0	0	0
岡山		1	2	4			1		8	1	2	3
広島	1	3	3			1	5	3	16	40	1	41
山口	1	1		2		1			5	1	0	1
徳島		4		1					5	0	0	0
香川		1				1	1		3	1	1	2
愛媛	1	1	2	2					6	1	1	2
高知	3		2	1			1		7	2	1	3
福岡		4					1		5	1	0	1
佐賀	1								1	1	3	4
長崎			2			1	2	1	6	1	0	1
熊本				1					1	0	0	0
大分									0	0	3	3
宮崎		1							1	0	0	0
鹿児島	1	1	1	2					5	0	3	3
沖縄									0	0	0	0
合計	81	107	84	110	23	26	68	35	534	324	92	416

のつに支部は、平成17年度の調査で、報告がなかったため、過去の報告をそのまま掲載しております。

平成16年4月1日から平成17年5月31日現在の集計である。